

2023年度「神戸女学院の100冊」書評コンテスト 講評

毎年実施している「神戸女学院の100冊」書評コンテストに、今年度は5編の応募があり、各分野の専門の先生方による厳正の審査などを経て、最優秀賞1編、佳作1編が選ばれました。

最優秀賞に選ばれた濱地萌々奈さん（総合文化学科4年生）は、T・G・ゲオルギアードス著（木村敏訳）『音楽と言語』（講談社学術文庫、2013年）を選ばれました。原著は、1954年にドイツで刊行され、日本語の翻訳が最初に出版されたのは1966年。音楽史の古典的名著と言われている作品です。濱地さんの書評は、同書の視角・論点を明らかにした上で、内容を丁寧に紹介し、その成果を自分の言葉で解釈するという、一般的な書評のスタイルを忠実に踏襲して、たいへんわかりやすく書かれていました。語彙は豊富、文体はなめらかで、心の襞に分け入ってくるような繊細な表現が、本人の思索の深みをうかがわせるところも、高い評価につながったと思われます。

濱地さんは、同書のテーマとなっている「音楽と言語」について、再現芸術である音楽には「過去と現代」「譜面と実際に演奏される音楽」という断絶があり、単純に「言語の音楽化」から「音楽の言語化」へという文脈では理解できないこと（弁証法的な関係にあること）、従って音楽作品の「保存と継承」の役割は、作品を次代に引き継ぐ私たちに課されているというメッセージが含まれていることを読み取っています。また、同書で扱われていない、言語をとまなういくつかの音楽作品——ブリテン「戦争レクイエム」やリヒャルト・シュトラウスのオペラ「カプリッチョ」——にも言及し、同書がそうした作品を解き明かす手がかりになることも指摘しています。

このように、哲学的思索を導きの糸とした読み込みには目を見張るものがある一方、審査された先生も述べられているように（このコメントは公開されていません）、刊行後およそ70年を経た現代の視点から読み直した場合に、どのような課題があるのかにも積極的に言及してほしかったという思いは残ります。実際に、対象となる音楽シーンはこの間大きく変貌を遂げており、日本の音楽史研究もずいぶん前進（近年であれば例えば岡田暁生さんの諸業績など）してきています。今後、自分なりの音楽史観を積み上げていってくださることを期待しています。

なお、濱地さんは2年前の書評コンテストにも応募され、優秀賞を受賞されています。

佳作に選ばれた大迫明璃さん（英文学科1年生）は、白井恭弘『外国語学習の科学—第二言語習得論とは何か—』（岩波新書、2008年）を選ばれました。「第二言語」とは、「第二外国語」ではなく、母語（第一言語）とは別の言語——つまり日本人で言えば、今では小学校から学習する英語が、例えば「第二言語」に当たります。第一言語の習得は容易なのに、第二言語の習得はなぜここまで困難なのかというのが、同書の根底にある問題意識です。

大迫さんの書評は、各章ごとの内容をコンパクトに要約しながら、そこに自分の意見や感想を付け加えるという形式で書かれています。書評の形式としてはやや生硬な印象をぬ

ぐえないものの、著書の内容を自分の体験とを照らし合わせながら理解しつつ、どうすれば第二言語の習得が容易に進むのかを必死に考えようとする姿勢がひしひしと伝わってくる作品に仕上がっています。最後に、同書の総括として、日本人が第二言語の学習を苦手とするのは、母語である日本語と第二言語として学ぼうとしている言語との乖離が大きいこと、日本人には第二言語を学ぼうとする「動機づけ」が弱いことの二点が大きいことを述べて、論が閉じられています。

書評を読ませていただきながら、大迫さんがまだ大学での学びを始めたばかりの一年生であるということに気づき、驚きました。この本を手にとったきっかけが、みずからの第二言語学習を効率的に進めたいという思いだったと冒頭で述べられているように、英文学科の学生としての外国語学習への期待と不安が、丁寧な読み込みとなって結実しているように思います。全体を通して、爽やかな余韻を感じる書評でした。ぜひ次年度も、別の著作を手にとってチャレンジしてほしいと思います。

受賞には至りませんでしたでしたが、ほかの3編も力作でした。書評コンテストに参加してくださったことに、心より御礼申し上げます。

「神戸女学院の100冊」は人文科学、社会科学、芸術学、自然科学にわたる神戸女学院大学の19の専門分野から本学教員が選んだ95冊に院長推薦の5冊を加えた、本学学生が一つの分野に縛られず自由に学びを広め、さらに自分自身のための専門を作るという、リベラルアーツ教育の基盤を作ってもらうための道標となるための図書です（神戸女学院大学Webページより）。

来年度も、多数の応募をお待ちしています。

2023年12月

教務部長・総合文化学科教授 河島 真